

会 議 録

1 会議名

第5回津有区地域協議会

2 諮問事項（公開）

・四辻町多目的研修センターの廃止について

3 議題

(1) 委員視察研修について（公開）

(2) 自主的審議につなげるための津有区の現状分析について（公開）

4 開催日時

平成26年10月2日（木）午後6時30分から午後8時00分まで

5 開催場所

ファームセンター 2階 第1会議室

6 傍聴人の数

0人

7 非公開の理由

なし

8 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

・委員：太田晃、小川和夫、草間美江子、手嶋千恵子、平岡一夫、古川三男、

牧繪雄一郎、牧野嶋剛、町田敏章、丸山美和子、丸山百合子、横田芳友

(欠席3人)

・事務局：中部まちづくりセンター 北島センター長、恩田係長、小林主事

・農業政策課：佐藤課長、高波係長、廣田主任

9 発言の内容

1 開 会

【小林主事】

定刻になりましたので、平成26年度第5回津有区地域協議会を開催いたします。本日の出席人員は12名です。菅野委員、服部委員、丸山彰委員からは欠席の連絡をいただいております。

上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上

の出席がありますので、会議が成立することを報告します。

2 挨拶

【小林主事】

はじめに、町田会長からご挨拶をいただきたいと思います。よろしくお願いします。

【町田会長】

皆さんどうも、お疲れのところをご苦労様です。今年の津有区の稲刈りの関係も順調に進んだようで、稲穂もだんだん少なくなりまして、田んぼも大分片付いてきたという状況でございます。

本日は諮問事項としまして、「四辻町の多目的研修センターの廃止」ということで、この件について農業政策課の担当の皆さんがお見えになっています。

それから議題として、我々委員の視察研修についてと、これからの津有区の自主審議についての現状分析ということで、テーマを絞り込みを行いたいと思います。よろしくお願いします。

【小林主事】

ありがとうございました。それでは、上越市の地域自治区の設置に関する条例第8条第1項の規定により、会長から議長を務めていただきます。町田会長、よろしくお願いします。

【町田会長】

それでは、以降の議事進行を務めて参りますので、よろしくお願いします。一応終了時間としては概ね午後8時を予定しておりますので、よろしくお願いします。会議に先立ちまして、会議録の確認ということで、今回は牧繪委員にお願いしたいと思いますので、よろしくお願いします。

3 諮問事項

- ・四辻町多目的研修センターの廃止について

【町田会長】

それでは、次第に沿って進めて参りますが、先ほど申し上げました諮問事項ということで、農業政策課の方から説明をいただきまして、その後意見を集約しまして、答申をしていきたいと思います。よろしくお願いします。

【佐藤課長】

— 資料No.1に基づき説明 —

【町田会長】

今ほど、ご説明を受けたわけですが、この件で何か分からなかったこと、聞いてみたいということがあれば、よろしくお願いします。

【古川委員】

地元の了解を得ているということなので、特に問題はないと思いますが、収入と支出の関係で、収入のところに「その他」と記載がありますが、これは主に何の収入ですか。

【佐藤課長】

ここに書いてあるとおり、市としては0円で委託していますので、「その他」というのは、町内会からの収入です。

【町田会長】

確認ですけど、指定管理者は四辻町の町内会になっているわけですね。

【佐藤課長】

はい。

【町田会長】

そこには、市から何らかのお金は出ているのですか。

【佐藤課長】

今、申し上げたとおり、指定管理料としては0円です。

【町田会長】

委託料が0円ということなのですね。

【佐藤課長】

そういうことです。

【町田会長】

分かりました。

【牧繪委員】

駐車場とその付随するゲートボール場のような広い施設がありますが、その全部を無償譲渡するということですか。

【佐藤課長】

今回は、建物について無償譲渡させていただきます。土地については「どうしますか。」と町内会へお話をさせていただいた結果、寄付していただいた部分もありますので、

町内会へお譲りすることもできるのですが、町内会としては、無償貸付でお願いしたいという話でございます。

【町田会長】

太田委員から、何かお聞きしておきたいことはありますか。

【太田委員】

建物に関して、譲渡していただくのはとてもありがたいお話ですが、譲渡していただくためには、登記の段階でお金がかかると思います。それから土地について、町内会としては、お借りしたいということですね。それに伴って、例えば駐車場も併設になっています。この駐車場は市の選挙等でも利用していますが、維持管理に関しては、全て町内会の負担になるのでしょうか。

【佐藤課長】

まず、登記費用の話がございましたが、登録免許税が掛かりますので、これについては、地元のほうで負担していただくということになっています。

また、修繕の話が出てきましたけども、大きな修繕も含めまして、地元の負担で今後修繕していかなければなりません。

土地については市の所有ということになりますので、その辺をまた町内会とのご相談になると思います。

また修繕費については、共生まちづくり課が所管する事業の中に、修繕費の補助がございますので、お使いいただければと思います。50万円以上の大規模な修繕に関しては、25パーセント補助できます。よろしくお願いします。

【町田会長】

それと確認ですが、この諮問内容の頭のところの譲渡条件で、「事業継続期間は譲渡後13年以上とする」ということで、13年にしたというのは、この建物自体が補助金か何かで造られているということ、その関係で13年になったのでしょうか。

【佐藤課長】

はい。この建物を造る時に、林業構造改革の強化施設整備事業ですね、農林水産省から補助をいただいております。建物の耐用年数と言いますか、補助の対象期間が24年でございます。来年の4月で、耐用年数24年のところ11年目ですので、あと13年残ります。その期間は現状のままの機能を維持していきながら、お使いいただきたいと思います。

【町田会長】

この事業計画期間というのは建物についてということで、理解してよいのですね。従って、土地の無償貸付も、同じ様に13年の期間という考え方でよいですか。要は、建物がある間は土地も借りなくとはいけないわけですよね。

【佐藤課長】

そうですね。

【町田会長】

それで、13年間経過した後は、土地の貸付について、再度内容等を確認して、検討されるということでしょうか。

【佐藤課長】

貸付については契約の方法によると思いますが、特別問題がない限りは引き続いて貸付を行うと思います。

【町田会長】

引き続いてということは、また13年間の無償貸付を行うということですか。

【佐藤課長】

建物も最低13年は今のままでお使いいただきたいということですし、それ以上お使いになっていただいても勿論結構でございます。土地については、建物がある限りは同じ条件でお貸しするということになると思います。

【町田会長】

その辺のお話は町内会のほうから出て来なかったのですか。

【佐藤課長】

いつまでかということですか。

【町田会長】

そうです。いつまでという話です。13年間はとりあえず現状のままで使っていく話になりますよね。その後、どうなのですかという話は、町内会として話はなかったと理解してよいですか。

【佐藤課長】

細かい話は多分なかったと思いますが、今の建物がある限りは同じ条件でという認識でございます。

【町田会長】

分かりました。他に皆さんのほうで何かありますか。

【小川委員】

全くナンセンスな話で申し訳ないですが、意外とこの地域で大きな建物ですので、地元の人たちは大変だと思いますが、非常によかったと思います。

以前、四辻町を構成されていた、現在は米町という地域があります。今は四辻町との関連は全くないと思うのですが、今回の無償譲渡に関して、米町の住民とのやりとりはありましたか。

【佐藤課長】

米町のところまでは周知していません。四辻町の町内会とご一緒させていただきながら進めて参りました。その施設については、ほとんどが四辻町の町内会を中心とする利用状況でございましたし、指定管理も四辻町にお願いしていますので、四辻町の町内会とご協議させていただいたということです。

【小川委員】

分かりました。ありがとうございました。

【町田会長】

他にいかがでしょうか。よろしいですか。もしよければ、この諮問について「適当である」という判断をするのか、今ほど小川委員からお話がありましたように、「他の町内との関係があれば、その部分をよく整理してください」というような意見を付けるか、それとも「この諮問については、よく分からないから認めない」という話になるのか、その3つだと思います。お話を承った限りでは、問題はないと理解しましたので、これは「適当である」という答申をしたいと思いますが、皆さんのほうで何か意見のある方がいらっしゃいましたら、お願いしたいと思います。よろしいでしょうか。

(よしの声)

ということで、この諮問については「適当と認めます」ということで、市長へ答申させていただきたいと思います。どうもありがとうございました。

【佐藤課長】

ありがとうございました。

—農業政策課職員退席—

4 議 題

(1) 委員視察研修について

【町田会長】

議題(1)として、委員視察研修についてということです。この件について、事務局から説明をお願いしたいと思います。

【小林主事】

—資料No.2に基づき説明—

【町田会長】

今ほどの説明の中で、聞きたいところがあれば、お願いします。

【牧繪委員】

長岡市の山古志ですが、日程的に帰りは何時くらいの予定ですか。

【北島センター長】

高速を使って1時間30分から2時間ほどかかりますので、帰りは午後4時30分から午後5時頃になると考えています。

【牧野嶋副会長】

昨年もそうでしたね。

【北島センター長】

そうですね、昨年もそのくらいでした。

【町田会長】

他にどうでしょうか。もし特別なければ、(1)今年度の視察研修を行うかどうかということを決めさせていただきたいと思います。正副会長としては、視察研修を行いたいと考えておりますが、皆さんの方で、「視察研修はする必要はない」ということであれば別ですが。この件に関しては、実施するという方向で考えてよろしいでしょうか。

(よしの声)

では、視察研修を行うこととします。

次に(2)実施時期についてということがありますが、事務局からお話があったように、③を選ぶとすれば、春日区との合同視察となり、候補日が決まっているということです。日にちについては後回しにさせていただいて、(3)視察内容について、どこに視察に行くかということを決めさせていただきたいと思います。

是非行ってみたいという所があれば、委員の皆さんから発声をしていただきたいと思います。

思います。その前に私の方から言わせてもらおうと、②原発とメガソーラーの関係については、どういう仕組みということについて理解することはできますが、津有区としては、メガソーラーを設置することは今の段階では考えられないと思いますので、②については、津有区協議会としては参考にならないのかなと思っていますので、その辺を話し合いながら検討させていただきたいと思います。どうでしょうか。何かありますか。

【小川委員】

私は、長野県の小川村と中野市ですか。そこが個人的には、中でもよいかと思います。

【町田会長】

今ほど③小川村と中野市の施設に行きたいという小川委員の話ですが、他の方はいかがでしょうか。

【丸山百合子委員】

私は、①山古志がよいと思います。もう震災から10年経ちましたし、本当は地震のあった頃に行きたかったのですが、今どのくらい復興したのか見てみたいと思います。

私は女性部で過去に小川村へ行ったことがあります。山へ入って行って、ちょっと遠かったのを覚えています。

【町田会長】

他の委員の方がいかがでしょうか。

【草間委員】

長岡の山古志ですが、これは復興の関係で、かなりの補助金を使っているという感じがしますし、もう1つは④「NPO 法人かみえちご山里ファン倶楽部」は、かなりしっかりした組織が組まれていると思うので、とても津有区は真似できないと思います。別に真似をしなくてもよいのですが、程遠いのかなという感じを受けています。

【町田会長】

程遠いとは、どういうことでしょうか。

【草間委員】

かみえちご山里ファン倶楽部のような一生懸命やっている法人を見学しても、組織や基盤がしっかりしすぎていて、手が届かないという気がします。なので、そう考え

ると小川村がちょうどよいと思います。

【町田会長】

分かりました。他にいかがでしょうか。

【丸山美和子委員】

私の意見も小川村です。女性部で小川村の「おやき村」へ私も行ったんです。でも、そこだけでなくて、また違う所も見られるということで、凄く興味がありますので、私も小川村に行きたいと思います。

【町田会長】

他の皆さんいかがですか。

【牧繪委員】

山古志についての参考資料を見ますと、4つの施設を巡ることになっているようですが、施設見学のようなことを行うのでしょうか。

【北島センター長】

お配りした参考資料2の中に4つの施設が載っていますが、その裏側に「中越メモリアル回廊」ということで、長岡市を拠点として、この4つの施設をいくつかのルートで巡るといったメニューもありますが、私たちが今回視察するのは、この4つの施設の中の1つである「おらたる」という山古志にある施設です。

長岡駅前にできた「アオーレ」という市役所機能も持っている施設の近くにメモリアル回廊の中核施設である「きおくみらい」というアーカイブセンターがありまして、防災関係者など全国各地から、これを学びに来る自治体の職員なども大勢いるので、そういった方向けのツアーもありますし、余談ですが、今年は震災から10周年になりますので、震災体験からの教訓を生かすため、全国各地からたくさんの方々がツアーでおいでになっていると聞いています。

また、8月に諏訪区の視察研修で、「川口・きずな館」と「小千谷・そなえ館」の2つの施設に行きまして。諏訪区の委員の皆さん方も「今迄の視察の中で一番良かったし、地震を振り返り、防災学習の大切さを学ぶことができました。」と仰ってくださいました。ただ、やはり視察には目的があって、諏訪区の場合は、協議会の委員が住民との懇談会を踏まえ、地域を対象としたアンケート調査について検討を始めているのですが、川口のNPO団体がアンケートを実施した経緯等を、係長のほうで事前に調査をしていたことから、この団体が事務局を担当している「川口・きずな館」へ視

察に行こうという目的で、行っています。敢えて今回「山古志の復興交流館おらたる」をご提案したのは、山古志は当時の震災で最も大きな被害を受けて、全村避難した地域です。最近では、錦鯉の養殖のほうも復活し、出て行った人たちも戻って来ているというような話も聞いていますし、施設を見学し、震災から復興の軌跡にふれることで、津有区の地域おこしや自主防災組織についても参考になればと思い、津有区の皆さんにご提案させていただいたということです。

【町田会長】

他にいかがでしょうか。皆さんの意見を伺うと、①長岡市の農村レストランと山古志に行く視察か②長野県の小川村と中野市への視察か、どちらかだと認識したわけですが、どちらにするかということで、挙手をしてもらって決めさせていただいてもよいですか。

(よしの声)

まず、長岡市の農村レストランと山古志へ行きたいという方は挙手をお願いします。

(8人挙手)

では、小川村と中野市へ行きたいという方は挙手をお願いします。

(4人挙手)

希望の叶えられなかった方は残念だと思いますけども、今回は長岡の農村レストランと山古志の「おらたる」へ視察に行くということで決めさせてもらってよろしいでしょうか。

(よしの声)

行き先が決まりましたので、次はいつ頃に行くのかという話になるのですが、この点について事務局から説明をお願いします。

【小林主事】

視察先が①長岡市の農村レストラン「すがばたけ」及びやまこし復興交流館「おらたる」で決定しましたので、先ほどお配りしましたカレンダーをご覧ください。農村レストラン「すがばたけ」については、定休日はありません。ただ、10月13日と26日、11月9日にレストランでイベントがあるので、この当日と前日の視察はできないというお話です。また、運営を行う、農事組合の方が、10月中は大学生の受け入れをしている関係で、11月のほうが都合がよいというお話を伺っております。

次に、山古志の復興交流館「おらたる」ですが、こちらは毎週火曜日が定休日です。

また「おらたる」の団体予約状況ということで、ホームページに載っているものを確認しましたところ、11月については定休日以外であれば大丈夫です。10月は29日と30日の午後は視察ができません。以上のことを考慮していただき、第1候補日と、それが駄目だった場合の第2候補日を決めていただきたいと思いますので、よろしくお願ひします。

—日程調整—

【町田会長】

では、第1希望が11月17日で、第2希望が11月19日ということで、お願ひしたいと思います。

日程については、10月10日以降に事務局から郵送で連絡が入るということで理解してください。ということで、研修の件については、以上で終わりにします。

(2)自主的審議につなげるための津有区の現状分析について

【町田会長】

続いて、「自主的審議につなげるための津有区の現状分析について」です。前回から同じ様なことばかり言っている気がして、前へ進みませんが、資料No.4ですね。皆さんから色んな意見を発言していただきました内容がまとめてあります。まず、大きく分けますと1つ目は「少子高齢化について」2つ目は「前島密について」3つ目が「住民の意識改革について」ということです。この中から今後、どのテーマに絞り込んで進めていくかということ、本日は皆さんと検討していきたいと思ひます。

皆さんの意見を見ますと、「少子高齢化について」の意見がここにたくさん並んでおひますので、この辺について検討していくのかなというふうに、私は思っています。

もう1つは、今話題になっていますが、高齢化もそうなのですが、少子化が随分進んでいます。地方都市は地域が消滅するんじゃないかという話が、元の岩手県知事の増田さんという方が、色んな所で発信されておひますのを聞いたことがあります。その辺を考えると、少子化や高齢化について検討していく時期なのかなと思ひます。それは私の個人的な見解でございますけども、その辺も踏まえて皆さんのご意見を聞いていきたいと思ひます。ということで、自由に発言してください。

【牧野嶋副会長】

この3つのテーマについては、「だから何ができるのか」という所に帰ってしまうと思ひます。さっきの研修の中身でも、私が個人的に見ていたのは、地震の被災地に行

くということで、自分の町内で自主防災組織を今年立ち上げていますので、そういった中で参考になる事が何か少しでもあるんじゃないかという見方で手を挙げさせてもらいました。

それぞれ皆さんが自分自身のテーマを持っていて、話合いをしていかないと前へ進んでいかない様な気がします。危機感を持って少子高齢化について、何かできないのかということもありますけども、実際やっていることと言えば、私は「青少年育成会議」の中で、「あいさつ運動」を一生懸命やっています。これも「少子化が進む中で、地域の住民と子供達があいさつを交わす手助けになれば」というところがテーマです。子供が減ったり老人が増えたりしていくのは、これはしょうがないということであれば、その中で何が出来るかを色んな世代の人と話合っていけば、少子高齢化の対策ではないかもしれないけど、何か足掛かりが出来ると私は考えています。

「前島密について」は、皆さんの意見を集約したこの文章の中を見ると、「前島密翁を顕彰する会」とタイアップして、勉強会を開くという意見がありますが、これにしても地域の中に、「前島密」について知っている人もいれば知らない人もいます。よっぽど子供の方が知っているって部分もあります。そういったこともあるので、勉強会を行ってもよいのかなと思います。

また、「住民の意識改革」というのは、この協議会の中で話合いをしても、意識改革という大きな問題に取り掛かった場合は、どうやって進めたらよいのか、私には分かりません。ただ、町内会長連絡協議会から、「また懇親会をやりませんか」という話も来ているので、意見交換をすることは出来ると考えています。

【丸山美和子委員】

私は藤塚なのですが、藤塚が本当によいと思うのは、秋祭りで餅つきをするのですが、餅つきの準備を班長さんがやって、老人会が餅米を蒸かし、婦人会がついた餅を付けるなど、ちゃんと分担が決まっています。夏祭は中学生が太鼓を叩いたり、お神輿を担ぐのも中学生が出てきてくれたりして、全員が参加してやるということは、本当に素晴らしいと思います。

【町田会長】

他にどうでしょうか。

【草間委員】

私が小川村を見に行きたいと言ったのは、ここの資料の写真に出ているエプロンし

たお母さん達が凄くよかったからです。今、少子化とかの話になると、うちの地区も3、4年前は子供が10人いたのに、今は小学生がたった1人です。なんとかしてあげなきゃとは思いますが、そうすれば「婚活の手助け」という話も以前にありましたよね。パーティを開いてあげるとか、そういう事も必要でしょう。まずは家に居る私たちの世代が、活力ある事をすれば、さっき丸山委員が言われたように、町内が活性化すれば、お嫁さんが来るような雰囲気になるのかなと思います。

【丸山美和子委員】

団地なんかは特に若い人達がいるから、婦人会が活躍するとよいと思います。

【草間委員】

町内の恥を言うようですけど、今は隣の家のこともよく分からないですよ。

【丸山美和子委員】

夏祭りは豚汁を作るので、お婆ちゃん達は鍋を持って来るのですが、重たいので、若い人が気が付いて持ってやったりして、すごく和気あいあいとやっています。

【草間委員】

よいと思います。

【町田会長】

草間委員の言われたように、私が凄く心配しているのは、今年から町内会長も仰せつかっていますので、子供の登下校の送り迎えを見てみると、我々が育った時はたくさんいたじゃないですか。今は子供が凄く少ないんだよね。極端な話をすれば、諏訪小学校は複式学級だなんて言われているけど、上雲寺小学校もほぼそれに近くなってきている訳だよね。何故そうなっているのかっていう話になって、今の話じゃないですけど、子供が少ないということは、要は子供を産む機会が少なくなっているんですよ。それで、さっき話した岩手県知事が言っているのは、地方に住む若い女性の減る率が凄く多いんですよ。何故多いかという、東京へ行ってしまうわけです。出産年齢の人が東京に行ってしまうと、東京は子育て環境が悪いから東京も子供の数は全然多くないんですよ。それで、地方は子育て環境がよいから、こちらで産んでくれるかと言えば、ちょうど若い20歳代～30歳代の比率が凄く低いというデータが出ているそうです。そういうことを考えると、高齢化も心配だけど、少子化がもっと心配じゃないかというのが、私の考え方です。

【丸山百合子委員】

高齢化はこれからまだ増えるけど、少子化はどうしようもないと思います。うちの地区もそうだけど、男性で結婚していない人が結構います。女性は嫁にいかないしね。

【町田会長】

その辺が、昔はお節介おじさんとか、お節介婆ちゃんがいたんだけど、今はそういうことができないから。

【丸山百合子委員】

「余計なことしないでくれ」って言われてしまいますね。親でも、子供に言えないです。高齢者は、長生きしているから増えているけど、子供は本当に少ないです。

【丸山美和子委員】

上雲寺小学校は、ほとんど藤塚の子供が通っています。

【平岡委員】

平成町は子供が少なくてね。

【町田会長】

だから、何故そうなるのか。要するに、さっき言ったように若い女性が東京に行ってしまうというのは、東京に行けば就職口があるのか、それとも色々と良い何かがあるのか分からないけど、その辺のところを津有区は津有区で魅力がある集落にしていく、そういうことを考えていかないと駄目なのかもしれません。その辺を課題として絞っていくという方法も1つあると思っています。

それは、どこまで出来るか分からないけど、我々だけが考えて、実行できる話ではないので、それを町内会長とも意見交換をしながら、仮に今の話であれば、婚活できるようなシステムや、それに近いような何かを作っていくのか。ただ、婚活できればそれでよいのか、それとも反対に良い職場がなくて、そこが問題ということになれば、それは行政とか、色んなところに働きかけをしなくてははいけません。そういうところに発展していけば、結構それなりに検討して何かやっていけるのかなという気がします。

草間委員と丸山委員も言うておられるように、年配の方々と若い人達が各集落に定着できて、上手く話し合いができたりする場所が設定されれば、それによって活性化されていって、それこそ若い女性なり若い男性が結婚する機会が増えるということもあるでしょう。そういうことを課題として、取り組むのも1つの手かなと思っています。

【草間委員】

今は、遠くの学校でもスクールバスや親の車で通えますからね。

【町田会長】

清里区に住んでいる人達が、三郷の保育園に子供達を置いて、勤めに行ったりしています。

【草間委員】

私たちの地域もそうですね。戸野目保育園に子供を置いて、仕事に行く家が結構あります。

【町田会長】

つまり学校が無くなって一番困るのは、地域自体のコミュニティが無くなってしまいうことです。当然、子供が少なくなっていくから、集落も消滅していきます。やっぱり整備していく必要があると思います。

また、その若い人達と意見交換をしながら、「そうは言っても、こうなるんだよ。」ということで、仮に集落が無くなった場合に、その人は他へ行っちゃう可能性もありますよね。だから、それでよいのかどうか、それでよってことになれば、それはそれでやむを得ないのかもしれませんが。その辺は、分かりませんが。

【草間委員】

例えばですよ。私達がこの年代で、小川村のような機能をつかって、若いお嫁さん達に「一緒にやりませんか。」と誘っても、「私はします。」、「私は嫌です。」、「やりたい人はやればよいと思う。」、「私はやりたくないから、仲間に入らないよ。」というように、きっと自分の気持ちだけで動いてくるんでしょうね。

【町田会長】

それはあると思います。

【丸山百合子委員】

女性部も結局はそうでしょう。女性部ですが、敬老部のようです。この歳で、女性部なんて少しおかしいくらいです。40歳代、50歳代の嫁がいますけど、「お婆ちゃんが辞めても、私は女性部なんか入らないよ。」と言うから、戸野目で女性部に入っているのは4人しかいません。「辞められないから仕方ない。」ということで、入っているような方がいるだけで、跡継ぎがいないです。

【丸山美和子委員】

藤塚でも婦人会があるのですが、1軒に1人入るっていう規則があるんです。お婆ちゃんが引退したら若い人が入るんです。だから私も、「65歳になったら引退するよ。お母さんお願いね。」と言ったら、「お婆ちゃん、私が出られない時は出てね。」と言われたから、「それはよいよ。」という話をしています。

【平岡委員】

引き継ぎが決まっているのですね。

【丸山美和子委員】

集落の規則にしています。そのかわりに老人会に入る人が少ないですけどね。

【町田会長】

他の委員の方はどうですか。少子化だけではなくて、「住民の意識改革」と言うか、「若い人達の意識改革」と言うか、「地域の中で生きていくのに、どうしたらよいか」という話になるかもしれません。

一番よいのは、そうすると「前島 密」について勉強するのが結果としては、一番適当という気がするので、そっちがよいのかなという気がします。

【牧野嶋副会長】

例えば、地域の皆さんに「前島 密の勉強をしている」という話を広げて、質問されたら「おお、詳しいね。」と言われるようになるのもありかなと思いますけどね。

【丸山百合子委員】

地元ですしね。

【牧野嶋副会長】

情報としては知っていてもよいと思います。

【町田会長】

あんまり難しい事ばかりを言っている、出口の無いことをやっても仕様がな
いしね。どうでしょう。

【草間委員】

出来ることを1つずつですよ。

【町田会長】

いつも同じ様なことばかり言っていて、前に進まない気がします、どうでしょう
か。

【牧野嶋副会長】

集約するとしても、難しいですね。それぞれが情報を持ち寄ることから始めないといけないと思います。

「今度、自主審議で少子高齢化について話し合いをしたいので、各町内に持ち帰って何か問題点やアイデアがあれば、持って来てください。」という様なことをやっていければ、少しは話し合いになるんじゃないかなと思ったりもします。

【町田会長】

そうすると、各町内に帰って用意してくれっていっても、時間も限られるし、なかなか出来ないと思うよね。そうすると、諏訪区みたいに、データーを見ながら少子化の話をしていく方法はあるかもしれないけど、意見を持って来てくれと言われても、なかなか難しいと思います。

【牧野嶋副会長】

その辺、問題が多すぎますね。

【小川委員】

難しい話なのですが、会長が言われたとおり、少子化というのは我々にとっては待った無しの状態だと思います。だけど、ちょっと待って欲しい、そういう現実なのです。

会長が少子高齢化の話の冒頭に、「何かをやる様に仕向けたらどうだね」と仰っていましたが、実現は未定ですが、何かを住民に問いかけてみたらどうかと思います。

例えば、この地域を真剣に考えている「町内会長連絡協議会」です。町内会長連絡協議会の中で、必ず端々には少子化のことが出て来ると思います。そういうものを聞きながら、少子高齢化と言っても、あまり我々の図上には構えられない大変難しい問題なのですが、テーマを持ってやれたらよいと思います。また、50年前を回想しましたが、上雲寺小学校に入学したら人が大勢いて、廊下をすれ違うにも狭いくらいでしたし、給食もマンツーマンで高学年が配膳してくれるくらい大勢いましたが、50年経つとこんなもんかなと思います。

【町田会長】

分かりました。最後にまとめていただきまして、ありがとうございました。自主的審議でテーマを早急に考えて、何とかしなくてはいけないと思うのですが、色んな意見交換をしながら、もう少し時間をかけてやっていくということになりそうです。よろしくお願いします。

とりあえず、今日は8時に近くなってきたので、申し訳ありませんけど、この議題については、引き続き検討させていただくということにさせていただきます。

5 その他

【町田会長】

協議会だよりの速報版ということで、今回の会議の速報版を事務局に作っていただきまして、委員の皆さんに配布しますので、町内会長の所へ10月29日までに持って行ってください。11月1日号の広報上越に併せて回覧させていただきます。

次回の開催について、11月下旬から12月中旬で考えていきたいというふうに思っていますが、視察が先ほどのお話で11月17日か19日という日程になりましたので、12月になってから第6回目を開きたいというふうに思います。それについては、いつにしたらよろしいでしょうか。

—日程調整—

次回は12月4日（木）午後6時30分から津有分館で行います。

次にその他として、事務局からお願いしたいと思います。

【北島センター長】

事務局から1点、注意喚起ということで、お願いします。実は交通事故の関係で、ある地域協議会の委員さんが徒歩で協議会の会議に向かう途中で車に撥ねられるという事故がありました。幸い大事には至らなかったのですが、今日もそうですけど、午後6時くらいになると真っ暗になりますし、皆さんそれぞれ徒歩でおいでの方、車の方もいらっしゃるかと思うのですが、くれぐれも交通事故にお気を付けいただきたいと思います。

【町田会長】

ということだそうでございますので、これから冬に向かって日も短くなりましたので、気を付けてお願いしたいというふうに思います。

6 閉 会

【町田会長】

それでは、これもちまして今日の会議は終了させていただきます。

10 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 中部まちづくりセンター

TEL : 025-526-5111 (内線 1449、1547)

1 1 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。